

ビジネス情報発信能力の育成 商業高校生に必要な情報処理能力

長野県商業教育研究会 情報教育研究委員会

I はじめに

今回の学習指導要領の改訂により、商業科における情報処理関連科目は従来の5科目から、基礎科目としての「情報処理」と「ビジネス情報」、「文書デザイン」、「プログラミング」の計4科目に整理統合された。これらの新科目の本格実施に向けて、各方面で具体的な指導内容・方法・教材等について研究が行われている。

本研究委員会では、従前の指導内容でほとんど触れられていなかった「マルチメディア」、「インターネット」、「プレゼンテーション」等を広範に扱う「文書デザイン」について研究を行ってきた。2年間にわたる研究を通し、年間指導計画と実習教材、実習テキストの作成に取り組んだ。

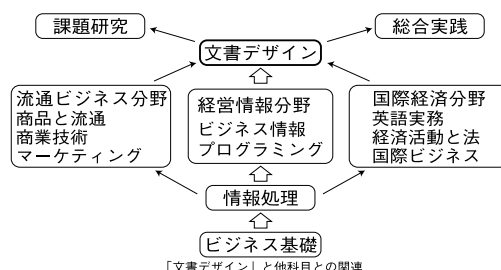
研究にあたり、この科目を企業のマーケティングに必要な広報活動の手段と位置づけ、技術的側面のみにとらわれることなく、企業のイメージアップや販売促進といった広報活動の手法を習得させながら、ビジネス情報発信能力の育成をめざすことを目標とした。特に実習方法にあたっては、コンセプトを明確にすること、訴えようとする内容が相手にうまく伝わるように表現を工夫することに主眼をおいた。

II 研究内容

1 科目の内容と位置づけ

「文書デザイン」は「文書処理」の名称変更とはいえ、従来「文書処理」の中心であった商業文書に関する内容は「商業技術」に移行され、マルチメディアを利用した、分かりやすい説得力のある広報文書の作成に重点が置かれた。

他科目との関わりは経営情報分野の他に、流通ビジネス分野、国際経済分野との関係が密接である。これらで学んだ基礎的な知識や技術を、実習を通して有機的に関連づけながら総合的に学習していくことが望ましい。



2 「文書デザイン」の年間指導計画

(年間指導計画例は、p.18～19参照)

年間指導計画作成にあたり、3単位（105時間）授業を想定し学習目標を次の3点とした。

- ① 例題商店：みすずペーカリー（仮想商店）の広報活動を通し、どのような広報手法が効果的なかを、実習の中で段階的に学習する。
- ② マルチメディアを活用したビジネス情報の創造的な表現方法と、分かりやすく説得力のある広報文書を制作するための知識と技術を習得する。
- ③ 情報通信ネットワークやソフトウェアを活用したプレゼンテーションなどにより、ビジネスにおける総合的な情報発信能力を育てる。

各章では、まず基礎知識を学習し、それを踏まえて同一課題を生徒各自が特色を出しながら実習課題に取り組み、発表を通して実習（学習）の成果を確認できるようにした。

こうして一連の学習をした後に「総合実習」として、創造的な広報作品の制作を行ない、知識の定着と情報発信能力の育成を図るようにした。

3 例題商店の背景と現状

実習テキストの課題は、後述の状況にある仮想商店「みすずペーカリー」（パン店）をモデルとしており、売上高を伸ばすために今まで行ななかった広報活動や、新商品の開発など、さまざまな販売促進活動を展開していく。中でも広告の手法に関する実習を主に進める形を取った。

<現状>地元商店街で創業以来30年、地域に根ざし、昔ながらの手作りパンの味と質には定評があっ

た。行列のできる人気のパン店であったが、最近近くにパンのチェーン店が出店し、客が奪われ売り上げも落ちている。(中略)今まで行わなかった商品や店の広告・宣伝を行い、広くPRをしていきたいと考えている(テキストより)。



【生徒作成「みすずベーカリー」のロゴマーク<基本コンセプト>まごころ MS-ペイントで作画】

4 実習テキスト作成にあたって

「文書デザイン」の学習をより効果的に進めるために、年間指導計画に沿ってテキストを作成した。テキスト作成にあたっては、次の点に留意した。

- ① それぞれの実習課題において、作品制作にあたってのコンセプトを十分考えさせる。
- ② コンセプトに沿った内容やストーリーの展開に重点をおく実習となるよう編集した。
- ③ アプリケーションソフトや情報機器の操作方法についてはあえて触れない。

③の方針は、テキストの表現にできるだけ普遍性を持たせたいと考えたからである。また、各章ともに次のような構成でテキストは編集されている。

- ・単元のめあて
- ・実習内容
- ・この単位にかかわる基礎的な知識
- ・実習課題
- ・指導上の留意点(教師対象)

5 「文書デザイン」の指導上の留意点

この科目は基礎科目の習得の上になりたち、また「課題研究」との関連も考慮しながら内容を考えていく必要がある。

この科目で私たちが特に注意すべき点として考えたのは、次の二点である。

- ① アプリケーションソフトや情報機器の操作方法中心の授業にならないこと
- ② 作品の出来にとらわれた実習や評価にならないこと

技術の習得やデザインセンスを磨くことも大切ではあるが、生徒の作品制作に至るコンセプトやアイ

デアを大切にしなければならない。情報発信や作品制作にあたり、目的・ターゲット・強調点を明確にさせ、作品構成のストーリーも大きな要素として大切にさせたい。

さらに、インターネットの活用等では、デジタル化されたデータは、利便性が高まる一方で情報モラルやセキュリティ管理についても注意を喚起させるべきであろう。また広報活動に際し、誇大・虚偽広告など、その表現方法に関する規制にも言及したい。

6 「文書デザイン」の評価の留意点

作品制作などの実習の比重が高い授業の評価方法は、筆記のみの一斉試験による評価では不適切であると考えている。実習に関する評価は、学習の過程や成長データなどを蓄え、次の「学び」に生かせる評価でありたい。指導と評価は別物ではなく、指導に生かす評価を実現したい。指導と評価の一体化である。具体的には作品のコンセプトに沿った内容、制作過程における知識・技術力の向上度、表現力、それらに対する自己評価、視聴者評価などの観点から総合的に評価することが大切である。評価票を工夫し、作品制作者の意図が視聴者に十分伝わったかなど、点数だけでなくコメントをつけさせたい。

III おわりに

学習指導要領の改訂にあたり、全ての高校生が情報教育を受けるようになった。中でもマルチメディアの分野は脚光を浴びている(「情報A」・「情報C」や専門教科「情報」)。身の回りのさまざまな問題などを、情報機器を活用して効果的に解決する方法を学ぶわけだが、商業科で学ぶ生徒たちにとっては、ビジネス教育の視点を明確にした「経営情報活用能力」の習得をめざさせるべきであろう。

「文書デザイン」が目標とするビジネス情報発信能力は、すべての商業高校生に求められる情報処理能力である。これはマルチメディアの活用に限らず、口頭によるプレゼンテーションなども含んでいる。

今後、生徒の学習意欲を喚起する評価方法など、まだまだ研究を深めなければならない部分は多い。しかし、本研究により「文書デザイン」における指導の方向性や具体的内容についてまとめることができ、さらに実習教材や実習テキストも一つの形として残すことができたことは大きな収穫である。

ご覧頂いた皆様のご意見を頂戴できれば幸いである。

年間指導計画(3単位)

指導項目	時数	指導内容	授業内容と教材
ガイダンス	1	科目の内容と年間計画について	テキストに沿って仮想商店の設定や、これから学習する事項について説明をし、1年間の流れをつかませる。
(1) 広報活動と文書	10	ア 広報活動の意義と役割 イ 広報の手法	【導入】 各自が広報担当となり、企業の経営方針・事業内容・製品案内などを広く社会の人々に理解してもらうには、どうしたらよいかを考えさせる。 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ・ニューメディア・直接・屋外・交通・店頭・店内・POP・ノベルティ広告等列举し、メディア別の特質や表現方法を考えさせる。 【作品制作実習】 ・ロゴマークの調査研究と作品制作(手書き) ・POP広告の調査研究と作品制作(手書き) 【発表と評価】 制作した広告を掲示し全員で比較検討させる。広報伝達が十分に行われたかどうかの確認、より効果的な方法を話し合わせる。
(2) 図形ソフトウェアの活用	5	ア 図形情報の役割 イ 図形情報の作成と編集	【図形ソフト等による実習】 ・表計算ソフトを使った売上高推移のグラフ化 ・図形ソフトを使った地図の制作 ・画像ソフトを使った企業のロゴマークの制作 【発表と評価】 制作した作品を掲示し全員で比較検討させる。 文書・図形・画像・グラフ・音声等統合の有用性を認識させる。
(3) マルチメディアの活用	25	ア 静止画像の利用 イ 動画画像の利用 ウ 音声の利用 エ 情報の統合	【各種データを取り入れた実習】 (1)仮想商店案内(パンフレット)制作 ・企業パンフレットで静止画像がどのように使われているか調査させる。 ・パンフレットのレイアウトを考えさせる。 ・デジタルカメラによる撮影・編集 ・これまで制作してきた図形情報や文書情報など効果的に統合させ作品に仕上げさせる。 (2)仮想企業の商品ビデオCM制作 ・ビデオのシナリオ作り ・デジタルビデオによる撮影・編集 ・音声データの取得方法としてBGMや効果音を入力 ・一つの作品に仕上げさせる。 【発表と評価】 パンフレット・ビデオ作品を全員で比較検討させる。さらに、前回発表との比較(より効果的な内容になったか確認)をさせる。
(4)情報通信ネットワークの活用	20	ア 広報文書の制作 イ 広報文書の発信	【ホームページ制作実習】 不当表示や誇大広告・虚偽広告とは何かを社会性や公共性の観点から考えさせる。また、情報モラルや広告制御制度について理解させる。 仮想商店ホームページ制作 ・ホームページ制作の留意点、制作に必要なものは何かを学習 ・ホームページ作成ソフトを使った商店のホームページを制作させる。 ・今までの実習で使用したデータの活用方法 【ネットワークを利用したホームページ発信】 ・校内ネットワーク上にホームページを開設し模擬インターネットの実習

(5)プレゼンテーション	15	ア ロ頭・文書による表現 イ ソフトウェアの利用	【プレゼンテーション学習】 ・ロ頭によるプレゼンテーションの準備のポイント、プレゼンテーションの基本、言葉以外の表現についての学習 ・プレゼンテーション用の文書の書き方についての学習 ・プレゼンテーション用ソフトウェアやオーサリングソフトによる発表用資料の制作についての学習 ・今まで制作した作品を題材に発表準備 【発表と評価】 今までに制作した作品を題材に、発表をさせる。それと同時に、生徒全員で他人の発表について評価票に記入させる。
総合実習	25	・身近な商店を選びその商店の販売促進をテーマに総合実習をおこなう	【グループ研究(作品制作)】 1グループ＝数名でグループ編成、各グループごとに地元の商店を1店選び、以下の項目を検討し、作品を制作 (1商店全体の広報の総合プロデュース) ①店舗選出、店全体の広報の概略を検討 ②商店の取材・情報収集・分析(店長や店員コメント、店舗風景、商品紹介など) ③広報全体のコンセプトのまとめ ④作品の企画・制作 ・商店ロゴマークの制作 ・商店パンフレット制作 ・商店紹介ビデオの制作 ・商店ホームページの制作 ・商店ポスターの制作 ・商品のチラシの制作など
総合実習 プレゼンテーション	4	・グループの作品を発表しあう	【グループ研究の発表】 プレゼンテーション用ソフトウェアを利用して、以下の項目を、各グループごとに発表させる。 ①広報全体のコンセプトの説明 ②各広報媒体(ロゴ、パンフレット、ビデオ、ホームページ、チラシ、ポスター)の説明 ③広報活動後(ビデオ放映、チラシ配布)の実績や影響についての説明 【発展学習】 ・生徒が制作したビデオを地元のCATVなどをお願いをして放映していただく、など ・生徒の制作した商品チラシを地域に配布 ・ビデオ放映やチラシ配布後の販売実績(売上、顧客数など)の変化についても調査・検討させる。

年間指導計画のうち、「指導上の留意点」の項目は割愛して表示した。

研究委員会組織

研究委員長	西村 昭男 (諏訪実業高等学校長)
研究委員	佐藤 祐三 (須坂商業高校)
〃	柳沢 成宣 (長野商業高校)
〃	佐藤 亘 (丸子実業高校)
〃	林 直樹 (小諸商業高校)
〃	田中 誠一 (諏訪実業高校)
〃	鈴木 卓 (赤穂高校)
〃	阿部 金光 (穂高商業高校)
〃	横山 満 (松商学園高校)
事務局	林 喜弘 (諏訪実業高校)

【今研究に関するお問い合わせは、長野県諏訪実業高校まで】